

論壇

時代の心理状況が左右

経済の勢いについての時代の認識みたいなのがある。1980年代末のバブルの頃は、多くの国民が、日本経済の将来や自分たちの未来について楽観的な見方を共有していた。それが経済の実態にも反映し、バブルを形成してしま

った。「皇居の土地の価値は米国のカリフォルニアと同じ」だとか、「東京都の土地を全部売れば米国の土地が4回買える」などという、今から考えれば馬鹿馬鹿しいような話が新聞などにまことしやかに書かれていた。そうした時代の雰囲気

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

気が当時の経済の活力の根底にあったことは事実だ。

そういった意味では、この20年

ほどの時代の雰囲気は全く正反対である。日本経済の将来や自分

ちの未来に悲観的な人が増えてい

る。こうした悲観的な見方が、足

元での経済にもマイナスに働いて

いる。消費者の財布の紐は固く、

の大恐慌の時代に、当時の米国の大統領が、「経済にとつて最大の

恐怖は、人々の恐怖心である」と

いった意味がよく分かる。時代の

心理状況がよくも悪くも経済を動

かしてしまう。

そうした中で、企業経営者と話

して気になることをいう人が多

い。アベノミクスで経済は当面は

東京五輪後の日本経済

消費が伸びない。企業も、史上最

高の利益をあげているのに、その

多くを手元資金として残してい

る。賃上げも規模が小さいし、投

資にもあまりお金が回らない。

経済がなかなか回復しない最大

の原因は、人々の心理状況が冷め

きっているからだ。1930年代

回復に向かっているが、それも一

時的なものだろう。東京オリンピック

が終われば、日本経済はまた

厳しくなる」と、というような発言

だ。オリンピック後、日本経済が悪

くなっていくということに根拠は

ないように思えるが、漠然とそう

考えている人が多いようだ。20

20年代に高齢化がさらに進むこ

とも関係しているかもしれない。

高齢化以外の重要要因

私はこの考え方は間違っている

と思う。オリンピックが日本経済

の長期的な趨勢を決めるという議

論は論外である。日本の高齢化が

さらに進むので厳しいという見方

は分らないではないが、人口構

造だけで経済の動きが決まるとい

うのもあまりにも単純すぎるよう

に思える。

重要なことは、2020年以降

の長期の趨勢を見て、経済に影響

を及ぼす要因にどのようなものが

あるのか考えてみるのだ。そう

考えてみると、高齢化以外に日本

経済に影響を及ぼしそうな重要な

要因がいくつかあることが分かる

はずだ。もっとも重要なものは、

AIやIoTなどが話題になるこ

とが多い、急速な技術革新の動き

である。技術の進化があまりにも

激しく、高齢化や少子化などの要

因を吹き飛ばしそうな勢いだ。

それに加えて私が重要と考える

大きな変化は、アジアにおける中

間所得層の増加だ。過去10年で10

億人、これからの15年で15億人近

い数の、中間所得層・富裕層が生

まれるという。それだけの人が貧

困から抜け出すということだ。こ

れが膨大な需要の増加として出て

くる。これに日本がどのように関

わっていくのか真剣に考える必要

がある。2020年以降の日本の

繁栄のシナリオについて、いずれ

詳しく取り上げてみたいと考えて

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。